

学校目標 「やる気いっぱい やさしさいっぱい 友だちいっぱい 時田の子」  
横浜市立時田小学校がより

平成27年度 まい た 2月号

平成28年1月29日  
<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/maita>

## 「お鍋」

副校長 青木 智

2月4日は「立春」。暦の上では、春となりますが、実際には一年で一番寒い時期です。こんな時には、暖かい食べ物が恋しくなります。特に、「おでん」や「寄せ鍋」などの鍋料理は、体が芯から温まり、心まで温かくなるような気がします。鍋料理に入れる具材は、味も形も違います。しかし、それぞれの具材がもっている味は煮込むことによって出汁として汁の中に溶け込んでいき、その汁の味をそれぞれの具材が吸収して、本来もっている味以上によりよい味となっていきます。具材同士が影響し合って、味を高めているといってもいいでしょう。更に、全体の味を整えるためには、それを調理する人の塩・醤油等の調味料のさじ加減が大切になってきます。それぞれの素材の味を損なわないように、一口一口味見をしながらよい味に仕上げていきます。その結果、味わいのあるおいしい「お鍋」に仕上がるのだと思います。

「お鍋」の具材にそれぞれの味があるように、子どもたちにも一人ひとり異なった個性があります。子ども同士がその違いを認め、よさを出し合い、影響し合って、友達のもっているよい面を吸収することによって、それぞれのよさや可能性を高めていくことができるのだと思います。さらに、子どもたちのもっているよさや可能性を引き出す為には、私たち大人の関わりがとても大切になってきます。子どもの思い通りにしていたのでは、出汁に砂糖をたくさん入れるようなものです。逆に、ただ厳しくするのも、塩や醤油を入れすぎるようなものです。それでは、子どもたちが本来もっているよさや可能性を摘んでしまいます。

一口味見をして、その味によって、味付けとして使う調味料の量を調節することが大切なように、私たち大人が子どもたち一人ひとりの心の育ちをしっかりと見つめ、気づき、時には温かく時には毅然とした態度で接することが大切なのだと思います。その結果、相手を思いやり、共に学び、高め合えるような集団が形成されるのだと思います。「お鍋のような学校にしたいなあ。」と、日々想っています。

【副校長のひとりり言＝「考えを行動に表わす」】

ある日のことです。私は電車に乗りました。そして、ドアの近くの座席が空いていたので座りました。電車が動き始めると、どこからか「コロコロ」という音が聞こえてきました。コーヒの空き缶でした。床の上を電車の動きや揺れに合わせて、向きを変えながら転がっていくのでした。中身が多少残っていたらしく、床には缶が転がった軌跡がコーヒ色で記されていました。「こんなところに缶を捨てていくなんて。」と私は不快な気持ちになりました。座席はほとんど空席がなく、立っている人も何人かいました。空き缶は、その人たちの靴に当たることもありましたが、ほとんどの人は、転がってくる缶をよけるようにしていました。いくつかの駅に停車した後、空き缶は何度か方向転換をしながら、私の近くまで転がってきました。私は、空き缶に手を伸ばして、自分の足元の他の人の邪魔にならないと思われるところに立てて置きました。これで「コロコロ」という音はなくなり、空き缶が転がってくるのを気にとめなくてもよくなり、電車の中は静かになりました。

降車する駅につきました。私が座席から立ち上がった時、同じ駅から乗った学生服姿の高校生がさっとその缶を手に取り、電車から降りていきました。続いて降りた私は、その行方を目で追いました。するとその男子学生は、改札口への階段とは逆方向にある回収ボックスに空き缶を入れると、何事もなかったかのように私の目の前を通り過ぎていきました。

みなさんは、この場面からどのようなことを考えますか。「空き缶を電車内に捨てていくなんて間違っている。」「自分がその場にいたらきっと拾う。」「自分のものではないけど、片付けた方がいい。」等、いろいろな考えが出てきそうです。この車両の中で空き缶の転がる様子に不快感をもっていた人は多かったと思います。どうにかしたいと思っていた人もいたかもしれません。この男子学生はそんな考えをさりげなく行動に移したということになります。

「よいと考えたことを行動で表す。」これは、簡単なようで大変難しいことです。その行動が人にどう思われるかという不安と何となく恥ずかしい気持ちを乗り越える、勇気と思い切りが必要かもしれません。けれどその行動は、前述の男子学生のように周囲に爽やかさを伝えてくれることでしょう。

私たちの生活の中には、考えさせられる場面がたくさんあります。一人ひとりがよいと考えたことを行動で表現し、今よりも暮らしやすい生活にしていけたらいいと思いませんか。